

～ 日本海難防止協会シンガポール連絡事務所発SRO news ～  
(Ref No : 26-02)

1 3月23日から4月2日にかけて、国家管轄権外区域の海洋生物多様性 (BBNJ) 協定の第3回準備委員会がニューヨークの国連本部で開催された。会期ギリギリまで交渉が行われ、情報共有メカニズム (Clearing-House Mechanism) のプロトタイプ開発について合意に至った一方、意思決定機関である締約国会議 (COP) の手続規則等では完全な合意に達せず、2027年1月の第1回締約国会議 (COP1) に持ち越された。

[原文](#)

(3rd April 2026, OceanCare)

2 3月24日に発表されたCNN等の調査によれば、深海採鉱に従事する中国の海洋調査船8隻の過去5年間における割当探査海域での滞在時間は、全航行時間の約6%にとどまった。探知を防ぐためのAIS停止や軍事関連港への定期的な寄港など、純粋な民間活動を超える行動パターンを示しており、それ自体は軍事行動とは言えないものの、科学的目的に加え戦略的、デュアルユース目的の存在を強く示唆するものであると報じられている。

[原文](#)

(24<sup>th</sup> March 2026, CNN)

[原文](#)

(25<sup>th</sup> March 2026, PACNEWS)

3 3月末に太平洋諸島フォーラム (PIF) が発行した「太平洋安全保障アウトルックレポート 2026」は、太平洋地域は、気候変動、地政学的競争、国境を越える脅威などが重なり合う「複合危機 (polycrisis)」に直面していると警告する。同報告書は、より強力な連携、気候変動対策、そして安全保障システムへの投資が重要であると強調している。

[原文](#)

(25<sup>th</sup> March 2026, PACNEWS)

[原文](#)

(Pacific Islands Forum Secretariat)

4 ソロモン諸島が2019年に中国と国交を樹立して以降、経済的に脆弱な現地メディアへの資本投下により、中国が条件付き資金提供や記事掲載要請など影

響力を拡大している。国境なき記者団（RSF）はソロモン諸島政府に対し、報道セクターの存続可能性と独立性を優先事項として取り組むよう求めている。

[原文](#)

(23rd March 2026, Islands Business)

5 中国は2019年のキリバスとの国交回復以降、病院船の寄港、公園整備など支援を続けてきたが、高等教育を受けたキリバスの若手エリートによる中国からの操作リスク回避や西側勢力による支援の拡大など、思うように影響力を拡大できていない。豪州はキリバスの状況を注視し、ツバルやナウル、パプアニューギニアと同様の二国間協定を締結して、中国の影響力に対抗することを検討すべきである。

[原文](#)

(24th March 2026, ASPI)

6 3月20日、フィジー内閣は、イスラエルの常駐大使館をスバに設置することを承認した。フィジーとイスラエルは1970年の国交樹立以来、平和維持、農業、安全保障、開発等の分野で協力を継続している。2025年にはフィジーがエルサレムに大使館を開設した。新大使館の設置により、安全保障・気候変動・農業・先端技術などの分野での二国間協力がさらに強化されることが期待される。

[原文](#)

(20th March 2026, FBC)

7 豪州のシンクタンクであるローウィー研究所の太平洋援助マップ（Pacific Aid Map）の最新データによると、パラオは太平洋地域で3番目に一人当たりGDPが高いにもかかわらず、外国からの援助がGDPの12%を占め、依然として援助依存度が高い状態にある。2023年の開発支援の88%は、台湾、日本、米国、豪州の4カ国が占めている。資金の47%が政府・市民社会分野に充てられる一方、保健・人道支援や男女平等分野への投資は地域平均を下回っている。

[原文](#)

(24th March 2026, Island Times)

8 3月26日、NZのラクソン首相とツバルのテオ首相は、NZのオークランドで会談し、二国間パートナーシップ協定を更新した。NZはツバル沿岸適応プロジェクトに2,000万NZドルの新規支援を表明し、今年度の対ツバル援助額から倍増以上とした。テオ首相は、独立から50周年となる2028年までにNZとの条約締結を目指す意向を示した。

[原文](#)

(26<sup>th</sup> March 2026, RNZ)

[原文](#)

(26<sup>th</sup> March 2026, RNZ)

9 3月25日、NZはバヌアツの首都ポートビラに、警察活動の拠点となる共有ワークスペース「キウィ・ファレ (Kiwi Whare)」を開設した。同施設にはNZ警察6名および国防軍要員が常駐し、バヌアツ警察本部・南部司令部・警察訓練学校に近接する立地を活かして共同活動を行う。設置の背景には、バヌアツが昨年末に国家安全保障法を改正し、外国の警察・安全保障アドバイザーに大使館等からの活動を求めたことがある。

[原文](#)

(27<sup>th</sup> March 2026, RNZ)

10 3月19日、太平洋地域の気候変動閣僚タラノア（対話会合）第3回会合がブリスベンで開催された。フィジーは10月5～8日に第31回国連気候変動枠組条約締約国会議（COP31）のプレCOPを主催し、ツバルでの首脳級セッションを含む3日半の拡大プログラムを提案している。

[原文](#)

(23<sup>rd</sup> March 2026, Pasifika News)

11 3月3日、ミクロネシア連邦（FSM）のパリック副大統領と籠宮駐FSM大使は、ヤップ州にあるミクロネシア短期大学（COM）水産海事学校（FSM-FMI）の新教室棟の引き渡し式に出席した。同施設は日本の経済社会開発プログラムによる無償資金協力プロジェクトを通じて建設されたものである。パリック副大統領は海事教育の強化を「国家的優先事項」と位置づけ、日本との永続的な「絆」を強調した。

[原文](#)

(18<sup>th</sup> March 2026, Embassy of Japan in FSM)

[原文](#)

(25<sup>th</sup> March 2026, Kaselehlie Press)

12 3月20日、マーシャル諸島のザキオス大統領代行は国会において、アジア開発銀行（ADB）がマーシャル諸島に対し、マジユロとイバイの上下水道・都市インフラ整備のために5,200万ドル超の無償資金を供与すると発表した。2031年までに行われる事業に対して支援される。

[原文](#)

(27<sup>th</sup> March 2026, the Marshall Island Journal)

---

## Handover ceremony of Japan-Funded classroom building at COM-FSM Fisheries and Maritime Institute

*FSM Information Services*

*March 3, 2026*

*YAP, Federated States Of Micronesia*

— The Honorable Aren B. Palik, Vice President of the Federated States of Micronesia (FSM), joined His Excellency Nobuo Kagomiya, Ambassador of Japan to the FSM, for the handover ceremony of a newly constructed classroom building in Yap.

The facility was delivered through the project “Enhancing the Capacities of the COM-FSM Fisheries and Maritime Institute,” funded by Japan’s Economic and Social Development Program. The building is expected to strengthen FMI’s ability to provide quality maritime education and training for students preparing for careers in the maritime

“Strengthening maritime education is not simply an institutional objective. It is a national priority,” he said.

Vice President Palik also encouraged FMI students to take full advantage of the improved facilities and remain committed to excellence and discipline in their studies.

The Vice President further reaffirmed the Federated States of Micronesia’s commitment to maintaining the facility and strengthening its partnership with Japan, highlighting the enduring “Kizuna”, or bond of friendship, between the two nations.

Vice President Palik also expressed, on behalf of the Simina-Palik Administration, appreciation to the



Friday, March 27, 2026 — The Marshall Islands Journal

# ADB commits over \$52m for key infrastructure

The Asian Development Bank is injecting over \$52 million for a major water and sewer upgrade for Majuro and Ebeye, Acting President Gerald Zackios announced in Nitijela at the end of last week.

The project will fund work through 2031 and includes:

- **\$38.76 million** for water and sanitation facilities in Majuro, including construction and operation of new reverse osmosis (RO) water plant and upgrading of existing hospital RO plant; upgrading two water treatment plants; installing battery energy storage at the water reservoir; relining of water transmission pipeline; extending, upgrading distribution network in DUD area, and providing metered household water supply connections.

These investments will be in conjunction with Majuro Water and Sewer Company.



Acting President Gerald Zackios.

- **\$6.18 million** for solid waste management, including support to Majuro Atoll Waste Company to include upgrades to existing landfill site, equipment warehouse and storage, and fencing. It will also support engineering designs for a new landfill site.

- **\$2 million** for road improvements on Ebeye, including paving the ocean side road and the lagoon-ocean side roads. Work is nearly complete.

- **\$5.5 million** is held for contingencies.